

令和7年度沖縄県愛鳥週間ポスターコンクール審査会 講評

今年度は作品点数も増え、作品のレベルも今年度も高く、作品の選出に最後まで悩みました。

小学生のレベルが上がって、画面の構成や野鳥の生態をうまく表現されていました。

中学生は、デザイン性が高く、ステンドグラスのような感じの作品や人々の暮らしなど生活の中で生きている野鳥を表現されていました。

高校生は、表現の切り口にバリエーションがあり、物語りやストーリーを感じる作品がありました。描き込みもすばらしく、甲乙つけがたい作品ばかりで、審査が一番難航しました。

次年度も多くの作品の出品と愛鳥週間を気にかけていただければ幸いです。

審査員 知念 仁志

今年も例年同様力作が多く出品され、どの作品を選ぶか大変苦労しました。

小学校の部においては、子どもらしい伸び伸びとした構図や色彩で描かれた作品が多く、野鳥に対する親しみを感じることができました。

中学校の部においては、モチーフに正面から迫ろうとする生徒の姿が見える作品が多く、技術面でも優れた作品が多く見られました。

高等学校の部においては、描写力はもちろんのこと、コンセプトをより良く伝えるために、構図や配色の工夫がみられました。

今年も選考規定に満たない作品（横作品、文字なし（小学校3年生以下除く））があり、残念ながら選外となっています。指導される先生方、または保護者の皆様においては、十分に募集要項をご覧になり、ご応募いただければと思います。

審査員 根路銘 まりえ

審査会では応募作品一つひとつに作者の皆さんの個性あふれる表現力に感動しました。

沖縄県ならではの野鳥をテーマに親子の絆や環境問題との関係性を想起させるメッセージ性を持つ作品、デフォルメして芸術性を感じさせる作品等、多様な感性を感じ取ることができました。

単に鳥の姿を描くだけでなく、その鳥がどのような環境で生きているのか、どのような物語があるのかを想像させてくれる作品ばかりでした。

森林や水辺、大空を背景に描かれた作品から自然と鳥とのつながりだけでなく、人間との関りを改めて再認識し、自然環境の大切さを教わる貴重な機会となりました。

審査員 本村 税